

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部情報セキュリティ政策会議  
重要インフラ専門委員会  
第 11 回会合議事要旨

1 日時 平成 19 年 9 月 28 日 (金) 15:00~16:20

2 場所 内閣府本府 地下講堂

3 出席者

[委員]

浅野 正一郎 委員長 (国立情報学研究所 教授)  
赤石 良治 委員 (東日本旅客鉄道 (株))  
稲垣 隆一 委員 (弁護士)  
岩田 隆 委員 ((社) 日本ガス協会)  
大塚 順三 委員 (日本放送協会)  
大林 厚臣 委員 (慶応義塾大学教授)  
雄川 一彦 委員 (日本電信電話 (株))  
小幡 篤 委員 (三井住友海上火災保険 (株))  
金澤 亨 委員 (野村ホールディングス (株))  
九萬原 敏巳 委員 (電気事業連合会)  
郡山 信 委員 ((財) 金融情報システムセンター)  
小山 正嘉 委員 (三菱東京UFJ銀行)  
田口 靖 委員 ((社) 日本水道協会)  
永瀬 裕伸 委員 (日本通運株式会社)  
早貸 淳子 委員 (有限責任中間法人 JPCERT コーディネーションセンター)  
広瀬 雅行 委員 ((株) 東京証券取引所)  
松田 栄之 委員 (新日本監査法人)  
森山 拓哉 委員 (住友生命保険相互会社)  
矢野 一博 委員 (日本医師会総合政策研究機構)  
渡辺 研司 委員 (長岡技術科学大学 准教授)  
渡邊 正美 委員 (東京地下鉄 (株))

[政府]

内閣官房情報セキュリティセンター副センター長

内閣官房情報セキュリティ補佐官

内閣官房情報セキュリティセンター内閣参事官

内閣府（防災担当） 政策統括官（防災担当）付地震・火山対策担当参事官（代理）  
警 察 庁 警備局警備企画課長（代理）  
金 融 庁 総務企画局参事官（代理）  
総 務 省 情報通信政策局情報セキュリティ対策室長  
総 務 省 自治行政局地域情報政策室長（代理）  
厚生労働省 政策統括官付社会保障担当参事官（代理）  
厚生労働省 医政局 研究開発振興課 医療機器・情報室長（代理）  
厚生労働省 健康局水道課長（代理）  
経済産業省 原子力安全・保安院 電力安全課長  
経済産業省 原子力安全・保安院 ガス安全課長（代理）  
経済産業省 商務情報政策局情報セキュリティ政策室長  
国土交通省 情報管理部情報安全・調査課情報危機管理室長（代理）  
国土交通省 航空局管制保安部保安企画課新システム技術企画官（代理）  
国土交通省 鉄道局危機管理室長（代理）  
防 衛 省 運用企画局情報通信・研究課情報保証室長

#### 4 議事内容

##### (1) 論点説明に関して

○ 事務局より説明

##### (2) 委員意見開陳

- 浸透状況調査の方法については、各分野の既存調査の利用とNISC案の2つがあるが、調査期間については、なるべく偏差をなくすようにしていただきたい。
- 今回の浸透状況調査に際しては、その調査範囲は目的に照らして各分野で適切に定めるといことになろうが、そもそも論として、重要インフラ事業者等とみなすべき範囲が不明確な分野については、どこかの段階で整理すべきではないか。
- 浸透状況調査は、2007年度に見直し前の安全基準等であることについての浸透度という形で逆戻りするようなアンケートになってしまっているが、次回以降は、事業者が後戻りしないで済むような視点での調査というものを考えていただきたい。
- 浸透状況調査については、初年度としてはまずは事務局提案の概略でスタートし、実際の調査を通じて、時期、やり方、調査項目、範囲などを見直しながら、より効果的なやり方を年々向上させていけばよいのではないか。
- 重要インフラにおける情報セキュリティ対策の状況を検証するに当たっては、単に数値的

なものだけが一人歩きするのではなく、その意味するところが何なのかという定性的な部分も、各分野の協力も得て十分分析した上で、数値データと定性的な分析結果を合わせて理解していくことが必要。

- 分野横断的な演習の成果の評価に関し、たとえばシミュレーションの技法や、警察や防衛などの既存の演習の評価指標などのノウハウについて、参考になるものがあれば共有できればよいのではないか。
- 現在の情報連絡体制では、重要インフラ間での情報の共有を進める観点からは、結果的に影響を可能な限り縮小することができたようなヒヤリ・ハットのケースを共有するツールがない。もう少しきめ細かく、運用を工夫するか、違った連絡形態をとるかしていかないと、真に有効な情報が出てこなくなるのではないか。
- 情報セキュリティ対策の向上を考えると、全体の社会的コストを、国民、それから重要インフラ、それから政府が全体のコストとしてどういうものを想定して、それをどうふうに分担していくのかという問題が、将来的には出てくると思われるので、コストをどうふう把握していくのかという点についても工夫が必要ではないか。

(以 上)